

同期会便り

在京同窓会メンバーが参加した催しを紹介する。

【各期同期会】

■中47・高1回

47期の旗よ、永遠に！

我ら東京四七会が、老衰のため休眠もしくは終焉の報告をしたのは昨年の本誌本欄でありました。「今後は組織を離れて個々の交流を軸としてミニ・ミニ集会を愉しみまいか！」でしたが、突如発生襲来の新型ウイルスによって世界中が恐慌し、国民すべて覆面みたいなマスク着用を強いられて外出も自粛、「三密」とやら珍妙な造語も出現し、いやはやもう、驚き、桃の木山椒の木。こうなりゃあ最後の手段は回想あるのみだ。すなわち朦朧化した記憶の糸を辿って振り返り、思い出探しをして、年寄り冷水の佳肴にさせまいか！とあいなりました。

我ら四十七期生は、旧制飯田中学4年プラス新制高校3

年と戦中戦後の足かけ7年を同居した仲間です。威張るわけじゃないけれど後輩諸君よりも丸々2倍の年月を高松原の学び舎で過ごしておりま。したがって卒業後も結束は固く同士愛も強い。徒党を組んで色々なイベントをやら。かした。「あれまあ、またまた四七会の衆が何だか興行師みたいなことをおやるようであります。まあズクのいいことだなむし」と、こんな挨拶言葉が飯田市のご婦人衆の間で交わされた時期があったと聞いております。

「毎度お騒がせ四七会」の武勇伝は、いずれ飯田の生き残りメンバーに書いて貰うが、今回は首都圏在住の四七会で制作した「我らの旗」を

ご覧頂きたい。

この旗は卒業50周年だったか60周年記念だったか、箱根や熱海をぞろぞろと100人ほどの集団で歩いた時の先頭に靡かせて意気を天下に示すと共に、迷子防止にもなるうかと白と臙脂の2本制作した。デザインは我ら同期の画伯永井郁（本名・郁雄、83ページ参照）君。彼はJALに鶴のマークを導入したデザイナーとして知られるが、我ら四七会の記念品や印刷物のすべてに永井君の画才が光っている。



この旗、いまや行方不明である。写真に残る最後の所持者はすでに黄泉の人だ。この旗も一緒に三途の川を越えた

のかも知れぬ。永井君も芝増上寺の墓地四七番で深い眠りに入っている。

さて、一転して、ホットニュースをお知らせしましょう。我らが40年も昔に編集発行した写真文集『青春の記録』から、写真だけ取り出して二百余ページの手作り美麗な私家版本にした奇特な後輩。その名は佐々木康夫さん（高15回）。彼は飯田伝馬町の老舗志保屋主人で我らの同期・佐々木敏夫君の末弟である。長兄が昔、深く関わった写真文集『青春の記録』の本へ寄せる敬愛から着想し、新型コロナ禍による巣籠りの慰めに開始した趣味の写真集手作りだったという。愛弟から献上受けた兄・敏夫君の喜びは、そのまま我ら四七会の喜びとなる。コロナ禍が生んだ兄弟愛、同窓愛のエピソードとして紹介。

（牧内雪彦／記）

■高6回 第14回「ふるさと巡り」、 参加22名!

「ふるさと巡り」の旅は、一昨年の会津に次ぐ第14回目。行先は1泊2日の旅程の内でのこと、結局は、都留でリニア実験センターを見てから清水に出て、三保の松原、久能山東照宮を巡るコースとなった。6月13、14の日取りで実施。飯田から福沢亀人、沢柳豊両君、5組のカップル参加もあって、総勢22名でバス貸切のツアーを楽しむことができた。

コロナ禍！ 同期総会・第15回「ふるさと巡り」は延期

昨年、通算200回を超えた月例懇親会(三水会)は、休むことなく回を重ねて来た。忘年会、新年会を盛大に開催、4月の同期総会は昨年を超す参加者を目指していた。「ふるさと巡り」も、行先希望を出し合い、仙台・三

陸あるいは比叡山・坂本と目的地を絞り込んで、具体化を久保田陸海君に託し、それを同期総会で披露、参加者を募ることにしていた。

2月3日、コロナ感染が確認されたクルーズ船が横浜に入港。13日には国内で初めての感染死亡者が出た。この間、月例会は2月、3月と開催された。しかし、2月28日、北海道知事が独自に緊急事態を宣言。3月9日には、専門家会議が三密の重なりを避けてと呼びかけるといった中で、3月19日の三水会では4月6日開催で案内していた同期総会を秋に延期することになった。続いて4月1日には15日の三水会の中止を通知した。さらに、4月7日には7都道府県、16日には全国へと緊急事態宣言が拡大されるに及んで、5月2日、この月も三水会が中止が伝えられた。

5月25日、宣言は解除されてもコロナは残る。ワクチン接種が実現するまでは、日常に戻しながら三密回避をどう保障するか。あらゆる分野での挑戦が始まっている。皆が三水会・同期会の交流を維持したいと願っている。久しく会っていない友の消息を尋ねた電話で、「検察庁法改正案どう思う、怒れよ」と返してきた友もいた。別の友は、懇親会場の三密対策、特に通風の確保が大事と話していたら、「これから変わるよ!もつと多くの問題をそれぞれの視点から皆で話したいね」と云った。80代の感染死亡率は30代の100倍だという。でも、ここ1、2年で皆がガラ携からスマホに替えている。遠隔授業を受けている小学生だっているんだから、趣向の変わった呑み会もツアーもあるように思う。でも、ちょっと大変かな、とも思うのである。

指揮の宮内宏先生(高2回)が亡くなられましたが、飯田の衆の多大な応援を頂いて無事歌い終わりました。

○10月17日 小池弘恵さんの所属する「新作家美術協会」の美術展があり、彼女の新作を東京都美術館で鑑賞しました。

○10月20日 高12回生の60周年同期会が飯田で行われました。記念行事は記念式典・祝賀会その他多彩な催しがありました。関東からは26名が出席して盛り上げました。

○2月10日 この日は新年会でしたが、この時期に林香さんが所属する「龍峽書道展」が催されていましたので、先ず東京都美術館に集まって書道展を鑑賞し、そのあと上野

の「伊乃」で新年会としました。参加者24名の盛況でした。

■高15回 「東地区二期(いちご)会」

コロナ危機など思ってもいない2月1日(土)、於・新宿サンパーク、恒例の「東地区一期会」が開催されました。インフルエンザが流行るこの時期、当日5名が風邪で欠席になりましたが、男性27名、女性12名の計39名の出席者でした。計報は橋場永尚君であり、先ず、心からお悔やみの黙とうを捧げ、会が始まりました。遠路者は、3年連続で生駒市から車椅子の講談師の折井亮夫君、掛川市から伏見富士江さん、飯田からは荒井

武夫君でした。久々の顔は5年振りの荒尾一義君、4年は畑中一成君に岡瑞穂さん、3年の山本真智子さんでした。勿論折井君の講談に耳を傾け、久し振りの方をはじめ、多くの出席者に近況を語ってもらいました。今村毅夫君の名司会の下、松島幸一君、横井川千廣さん、坂元妙子さん達の先導によるビンゴゲームは、各人持ち寄りの景品の他、飯田の中田恭一君からマルマン味噌、宮島八東君から喜久水酒が多く提供され、皆々、競って取り、持ち帰りました。会場



第33回 東地区一期会 総会

■高17回
「卒業55周年記念同窓会」開催
新しい令和の時代を迎えた
昨年の9月23、24日にわた



「サロン席の面々 久しかれコノ風景」
右から、清水邦人・沢柳豊・市瀬陽男・林史欣・毛涯卓郎・久保敷秀男・奥村勝亮・福沢亀人・熊谷直孝の諸君

■高12回
東京35会、今年度(令和1、2年)の活動報告
○9月22日 我が「華齢なる合唱団」は、恒例となった飯田での「第7回華齢なる音楽祭」に出場しました。今年

た会になりました。
(佐々木康夫/記)



(右列手前から) 松澤正、松村尚哉、下平紀代子、田中八重子 (左列手前から) 杉戸美記世、長尾政彦、吉澤弘和

■高32回 Zoom飲み会で近況報告会
すっかり定例会会場となつている新宿のジギスカン飯田屋で、春の定例会打ち合わせと称して集まったのが、行動自粛宣言の出る直前3月初旬。まさかそれきり会えなくなる年になるとは思いもせず、結局、夏になつてもZoom飲み会で近況報告をし

で「富姫の会」は開催中止となつてしまつたが、来年こそ、会の名前に添つた楽しい会に皆で参加しよう。
(岡田峯明/記)

市瀬達弥君が創設メンバーということから命名され、原則毎月開催され、時には在京以外の参加者を迎えることもあり、同期生の消息やその時々話題などで楽しい時間を過ごしています。また、毎年5月は、マレーシア在住の日置操君の帰国に合わせ、拡大キイチ会を青山のライオンで行っています。昨年は5月ではなく11月7日に日置君の奥様にも参加いただき、参加者12名で時間が過ぎるのも忘れて、大いに盛り上がりました。

本年度は24回が本部同窓会の幹事学年でしたので、昨年9月にはダリアの会という女性の会に合わせて、飯田からのメンバーと在京のメンバーで打合せを行い、講演者に決まつた市瀬達弥君はその後も飯田のメンバーと打合せを重ねましたが、残念ながら新型コロナウイルス



(前列左から) 吉沢富貴子、藤澤由美、木下悦子、市瀬達弥、木下敏隆、秋葉礼子、関根幸子、渡部翠、中島美和子、矢野耕一、林一彦、(後列左から) 置秀隆、坂むつき

■高25回 「富姫の会」来年に期待！
昨年9月29日(日)に毎年恒例の会場である新宿三平に

の影響で中止になつてしまいました。本部同窓会は、24回の幹事が来年に持ち越しになりましたので、来年こそは市瀬君の自分史ともいえる楽しい講演を聴けるよう期待しています。その際は在京の24回生はこぞつて飯田に集まりましょう。また在京同窓会にもご参加下さい。
(今村昭文/記)

■高35回 初のオンライン在京同窓会、ただいま鋭意準備中です！
昨年の在京同窓会の終わりに「来年の幹事頑張ります！」

ている状態です。今年も同期の齊藤則章氏が飯田高校の校長に就任しました。われらそういう年齢になつたのか、という感慨を胸に、LINEで「おめでとー！」スタンプが飛び交いました。
にわか山岳班では、GWに御岳山を予定していたものの延期、観劇班は、同期の山上優氏の芝居、「いつくしみふかき」映画鑑賞と、粛々と活動中です。ゴルフ班、マラソン班、旅行班は動くに動けず、各自準備期間を過ごしつつ、来期に備えているところですが。来年は還暦記念同期会を開くに。みんな集まつてな！
(下平紀代子/記)

て、我ら同期会「富姫の会」が開催された。当年より女性が参加し易いようにとの配慮から午後1時からの開催となつた。当初30余名が参加予定であったが、当日、都合が悪くなつた方数名を除き29名の参加にて、例年のごとく近況報告や親族話、昔話に花を咲かせた。

今年、なんとと言っても嬉しかったのは、茶道裏千家の教授の資格を持つ北澤祥子さん(旧姓 芦部さん)が、参加者全員に見事なお点前でお茶をふるまつてくれたことだ。



北澤さんのお点前が和んだ同期生一同

おもてなしの心としてお茶の美味しさを引き立てる金沢の干菓子も用意してくれていました。お点前で、惜しみながらも宴を終えた。

約4時間の時間があつという間に過ぎ去り、最後に校歌、信濃の国等を斉唱し、次回の再開を期して、惜しみながらも宴を終えた。

後日、当日参加できなかった小林健市君からの呼びかけで、九州からの出張帰りの宮島昭治君を含め、5名ほどでミニ同期会も開催した。残念ながら今年も新型コロナウイルス



前木藤文、林正俊、野見和子、前田文典、松澤英明、上田正明、佐藤英作、長尾政彦、長尾優香、宮島昭治、田中清、奥村浩志、片桐文夫、矢野剛夫、水上純司、村田博道、後藤朝樹、松田尚子、塩沢健枝、津本早苗、松上文字、北澤祥子、中野ひろ子、本間朋子、佐々木澄子、藤田恵子、下平真子、(徳光) (豊田) (現住) (伊藤) (青木) (青木) (川上) (久保田) (伊藤)

(1)徳穂

在京同期会の活動報告をお送りください！
封筒の表書き、またはメールの件名に「稲穂」第18号「同期会便り」原稿と明記のうえ、お送りください。⇒送付先は101ページ



野見和子、前田文典、長沼零児、大井法子、中山悟、大林優香、豊田朋子、池田早苗

れることなく、参加者の皆さんに最後まで興味を持ってもらえるように、代表幹事皆でアイデアを出し合いながら、この初めての試みに挑戦しています。
(大井法子/記)